

大学等名：明石工業高等専門学校

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）

感情に着目したアクティブラーニングによるAbilityとCompetencyの向上

これまでの高等教育で重視されてこなかった「学生の感情」に焦点を当て、Ability(一人で何かできる力)とCompetency(集団の中で自分の能力を発揮できる力)を養うアクティブラーニングを実施する。学生に興味や知る喜びと言った、ポジティブな感情を起こさせる授業法を実践し、学生の主体的学修を促す。もう一方は、ポジティブな感情だけでなく、不安や怒りなどネガティブな感情も生まれる環境において、他者と協働する能力をのばす。また、教員コーチによる授業調査・分析や学生ヒアリングから、新たな教授手法を確立する。本事業によって従前の画一的な高専教育を、インタラクティブな教育へと質的変換を図る。



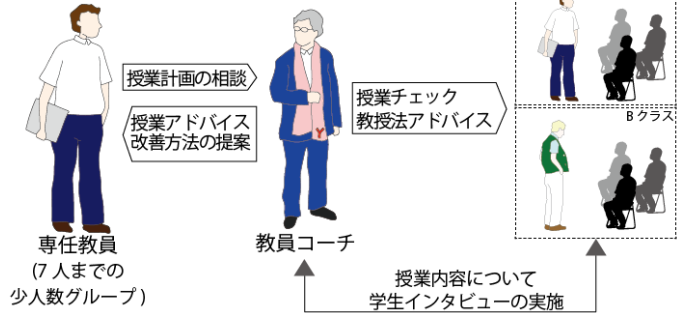
図1. 感情、行動、思考の連鎖

これまでの教育は、「いかに考え、いかに動かすか」であった。私たちが目指すのは、感情を含めて「いかに考え、行動し、何を思ったか」である。主体性は、放置しておいて養成されるものではない。教員からの積極的な働きかけと、フィードバックによって、講義内外関わらず、学生の感情がいかに動いているかに着目する。その際、図1,2を参考とする。

教員の授業改善と教育力の向上

ポジティブな感情を誘発する / Abilityを養うAL

能動的な教授法による学生の主体性の構築



「教員コーチ」を中心に授業方法についてのPDCAサイクルを回す。特にALをおこなうのが難しい科目について各教員が相談する。「教員のコーチ」に授業をチェックしてもらい、改善していく。

学生がポジティブな感情を持つ授業(驚き、知る喜び、信頼)→主体性な学び

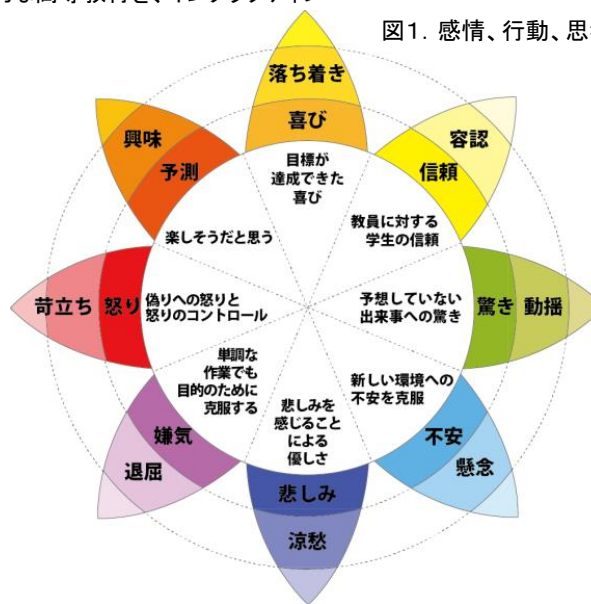


図2.Plutchikの感情の輪

【事業の成果】

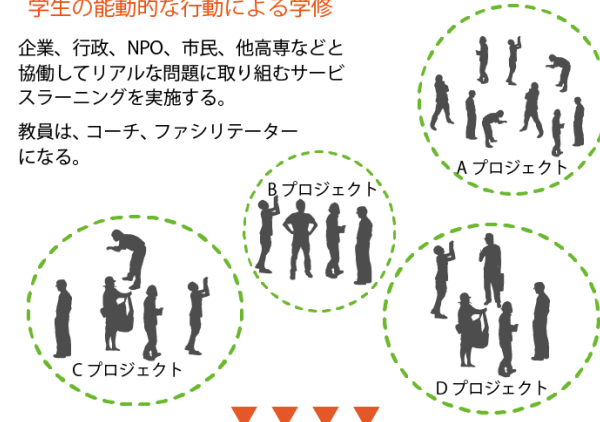
Competencyを養うAL

自分の感情をコントロールすることを学ぶ

学生の能動的な行動による学修

企業、行政、NPO、市民、他高専などと協働してリアルな問題に取り組むサービスラーニングを実施する。

教員は、コーチ、ファシリテーターになる。



活動後の振り返りにより、感情変化を読み取り、フィードバック

	26年度 (実績値)	28年度 (実績値)	31年度 (目標値)
1.Competencyを養うALを導入した授業科目数の割合	5%	5%	20%
2.Abilityを養うALを受ける学生の割合	25%	100%	100%
3.Competencyを養うALを受ける学生の割合	20%	100%	100%



・本事業によって、フィードバックを用いた新しい授業改善手法を検討し、他大学などでも活用可能性がある。

・学生及び教員コーチから教員へのフィードバックがかかり、常に授業が改善される仕組みをくることで、本校の教育改革を加速させる。